

# インマヌエル中目黒キリスト教会 2014年5月25日聖日礼拝

---

「賛美の恵み～主は身を低くして」  
マタイの福音書26章20-30節及び

詩編113篇1-9節

河村従彦牧師



# 聖書朗読

## 新約聖書

### マタイの福音書26章20-30節

聖書本文は新改聖書第三版  
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp50~/ 第三版の聖書はp55~

- 20 さて、夕方になって、イエスは十二弟子といっしょに食卓に着かれた。
- 21 みんなが食事をしているとき、イエスは言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちひとりが、わたしを裏切ります。」
- 22 すると、弟子たちは非常に悲しんで、「主よ。まさか私のことではないでしょう」とかわるがわるイエスに言った。

- 23 イエスは答えて言われた。「わたしと  
いっしょに鉢に手を浸した者が、わたし  
を裏切るのです。」
- 24 確かに、人の子は、自分について書いて  
あるとおりに、去って行きます。しか  
し、人の子を裏切るような人間はわざ  
わいです。そういう人は生まれなかった  
ほうがよかったです。」

25 すると、イエスを裏切ろうとしていたユダが答えて言った。「先生。まさか私のことではないでしょう。」イエスは彼に、「いや、そうだ」と言われた。

26 また、彼らが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福した後、これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」

- 27 また杯を取り、感謝をささげて後、こう  
言って彼らにお与えになった。「みな、  
この杯から飲みなさい。
- 28 これは、わたしの契約の血です。罪を  
赦すために多くの人のために流される  
ものです。
- 29 ただ、言っておきます。わたしの父の御  
国で、あなたがたと新しく飲むその日ま  
では、わたしはもはや、ぶどうの実で  
造った物を飲むことはありません。」

30 そして、賛美の歌を歌ってから、みなオリーブ山へ出かけて行った。

**聖書朗読**

**旧約聖書**

**詩編113篇1-9節**

聖書本文は新改訳聖書第三版  
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp938~/ 第三版の聖書はp1022~



- 1 ハレルヤ。主のしもべたちよ。ほめたたえよ。主の御名をほめたたえよ。
- 2 今よりとこしえまで、主の御名はほめられよ。
- 3 日の上る所から沈む所まで、主の御名がほめたたえられるように。
- 4 主はすべての国々の上に高くいまし、その栄光は天の上にある。
- 5 だれが、われらの神、主のようであろうか。主は高い御位に座し、
- 6 身を低くして天と地をご覧になる。

- 7 主は、弱い者をちりから起こし、貧しい人をあぐたから引き上げ、
- 8 彼らを、君主たちとともに、御民の君主たちとともに、王座に着かせられる。
- 9 主は子を産まない女を、子をもって喜ぶ母として家に住ませる。ハレルヤ。

# 説教

**「賛美の恵み～主は身を低くして」**

**マタイの福音書26章20-30節**

**及び 詩編113篇1-9節**

**河村従彦 牧師**



# I 最後の晩餐

## A 情景

- 1 過越の時だった マタイ26:2、16
- 2 分餐 26:26~27
- 3 賛美 ~晩餐の後

## B 背景としての過越の祭

- 1 ユダヤ人の民族的ルーツ
- 2 過越の祭の様子  
セデルの食事  
教育の場  
賛美 ~「ハレル」

### 3 過越の祭で歌った歌 詩篇113篇～118篇

食前に第二の杯をあけるまで

→113篇～114篇

食後に第四の杯を注いでから

→115篇～118篇

## II 最後の晩餐で 113篇～114篇

### A 113篇の構成

1～4節 賛美への招き

5～9節 賛美の根拠

### B ポイント 5～6節

1 身を低くして ～「沈み込んだ状態」

2 賛美すべき神さまは？

高い御位に座しておられる

低いところにおられる

3 逆転の恵み

## C 神さまのイメージ

- 1 神さまは決して上におられる方ではない
- 2 へりくだりとは ~イエスさまの生き方

### III 最後の晩餐を終えて 115篇～118篇

A イエスさまにとっての「時」  
十字架の前に

B そういう状況での賛美

115:1

116:2～15

118:15～24



## IV 賛美の恵み

A 必ずしも明るくなければ

歌えないものではない 詩篇42:8

1 明るく生きられる時には

賛美はそれほどいらさない？

2 賛美は明るい時には歌いにくい

B 一人ひとりの心の素直な表現

1 被造物としての賛美のイメージ

王の前にひれ伏す姿 牧者であり父

2 「みんなの賛美」と「わたしの賛美」

詩篇22:25

3 自分が一番心地良い文化形態で

C 心を天国の味わいへ導いてくれる

1 ほとんどの賛美歌の最終節

2 人間の素の姿  
小さな子どもも  
すでにわたしの中に

# 教会福音335番「はるかにかにあおぎ見る」

1 はるかにかにあおぎ見る 輝きの御国に  
父の備えましし 楽しきすみかあり

〈折り返し〉

われら ついに 輝く御国にて  
聖き神と ともに御前に会わん

2 輝く御国にて 憂きも悩みもなく  
楽しき声合わせ たえず共に歌わん

3 父の愛溢れて 幸い身に余る  
豊かなる恵みを とこしなえにたたえん

しめくりに

イエスさまの心の中にあつた賛美は？  
わたしたちが現実の生活の中で  
歌える賛美は？